



# 世界で活躍する人材育成へ 「グローバル人材育成特別コース」新設

◀「グローバル人材育成特別コース」の授業風景

岡山大学は国際化に対応し、世界で活躍する学生を育てるため、平成25年4月、「グローバル人材育成特別コース」を新設しました。全国の大学でグローバル人材育成の様々プログラムが立ち上げられています。本学の特長は、高度な専門科目を学ぶことと、語学力などグローバルな素質を磨くことを両立させていることです。

毎年入学直後に、全11学部及びマッピングプログラムコースの新入生の中から、一定の語学力を持ち、国際的な活動や日本文化・地域社会への深い理解を踏まえた異文化交流に意欲ある学生を選抜します。コース科目は、大きく分けて、海外留学による単位履修と国内でのコースワークで構成。履修生はまず、世界の若者と十分議論ができるよう、英語力・コミュニケーション力を養成するための特別集中カリキュラムで学び、春・夏休み期間などを活用し、海外の大学等に約1カ月間語学研修留学体験を行います。また、世界で渡り合うには異文化・日本文化理解力、英語による専門分野理解力などが必要で、こうした資質はコー



グローバル人材育成について意見交換する森田学長とコース生▶

スワークを通じて深めます。その後、数カ月から1年間の留学を行い、世界に通用する語学力と人間力を身につけます。留学をしても、基本的には規定の年限で卒業できるようプログラムされています。同コースの新設にあわせ、各学部などと連携し、学生の教育やコース運営を担当する学内組織「グローバル人材育成院」を開設しました。5月29日に行った看板上掲式では、森田潔学長や荒木勝育成院長らが学生に、「世界に通用する積極的で発信力のある人材に育って」と激励の言葉をかけました。初年度（平成25年度）は53名が同コースを受講しています。

## 編集後記

今号より、社会文化科学研究科の原田先生に副編集長をお願いすることとなりました。原田先生にはご着任早々、今号の学長インタビューにご参加いただきました。これより2年間よろしくお願いいたします。

実は本誌の編集長と副編集長という役目、2年ほど前に私と林先生がお引き受けした時にはどういった経緯か、任期はいつまでかなど、全々はっきりしないまま、両名が所属する部長に指名され、任に就いたという状態でした。今回、林先生のご転任を機に、編集長、副編集長共に任期は2年で、部局持ち回りで担当するというルールになりました。ただし、本年度に私も交代すると引き継ぎができなくなるため、私はあと1年居残ることとなりました。その結果、森田学長の現在の任期と同じ期間の任期となりました。森田学長が岡山大学の進むべき道を示し、その実現のために重ねてこられたいろいろな「仕掛け」には及ばないとは思いますが、残った任期でいよいよ並木がさらに皆さんに読んでいただける広報誌となる工夫をしてみたいと思います。

工学部教授 ● 後藤 邦彰

所属部局の情報・宣伝関係委員を担当している縁で、本誌の副編集長に就任することになりました。岡山大学に赴任してからは、周りの方々の配慮もあり、教育・研究に専念することができました。約5年が経過した現在、一構成員として、大学という組織・制度に関する課題にもより関心を持つべき時期がきたともいえますので、これを機に、その現代的課題とそれに対する岡山大学の取り組みに関する情報を収集し、皆様に発信するとともに、自らの視野を広げていきたいと思っております。

法学部准教授 ● 原田 和往

今回の特集は、キャンパス整備の在り方をテーマとするものであり、目に見える変化を伴うという点で、私のような若輩者にも容易に大学としての取り組みを理解することができました。また、編集長の後藤先生と学長のやり取りを通じて、その基礎を為すビジョンについて理解を深めることができました。美しく気品あるものへと生まれ変わるキャンパスのように、私も見聞を広め、成長していきたいと思っております。

Postscript by the Editor